

リニモ沿線地域づくり構想の概要

1 構想策定の目的等

大学・研究開発施設が集積するなどの地域の優位性や博覧会の開催を契機に飛躍的に向上した広域交通条件、博覧会の理念・成果を継承する取組など様々な特性を地域の発展につなげていくために、地域を結びリニモを積極的に活用した魅力ある新たな地域づくりの構想を県と沿線市町が共同で策定する。

2025年(平成37年)を展望しつつ、2015年(平成27年)を取組の目標年次とする。

地域づくりを計画的に誘導していくことが必要な「長久手古戦場駅」から「八草駅」までの各駅周辺(概ね1km圏)及び博覧会の理念継承の場である「海上の森」を主な対象地域とする。

2 時代の潮流と地域の特性

(1) 地域づくりを取り巻く時代の潮流

- ・ 人口減少・超高齢社会
- ・ 環境を重視した社会
- ・ グローバル社会の深化
- ・ 心の豊かさを重視した社会

(2) リニモ沿線地域の特性

- ・ 広域的な交通ネットワークの充実
- ・ 大都市近郊の豊かな自然環境
- ・ 愛・地球博を継承する施設群と活動
- ・ 大学や研究機関の高密度な集積
- ・ 東山から延びる文化・居住の最東端

3 地域の将来展望

(1) 地域の将来像

愛・地球博の成果を継承・発展させるまち

環境共生型の暮らしが根付き、文化・レク施設などに人々が賑やかに集い、楽しく交流し、新しい地球市民交流・市民活動が生まれるような万博の理念や成果をさらに具現化しうるまち。

愛知の新たな飛躍をリードする研究学園地区

大学や研究機関などの活発な相互連携や研究交流が行われ、研究成果などを世界に向けて積極的に発信していくことで、本地域のみならず愛知県や中部圏全体の成長と新たな飛躍をリードしていく研究学園地区。

リニモでつながる「コンパクト」なまち

駅周辺に豊かな自然と調和した特色ある住宅地や都市機能がまとまり、自動車や公共交通、自転車、徒歩などをかしく使い分けるライフスタイルを実現し、環境への負荷を低減した持続可能なまち。また、コンパクトにまとまった特色あるまちがリニモでつながり、沿線全体として他地域にはない大きな魅力が生まれるモデル的なまち。

(2) 将来の人口等

<現 状>		<2025年(H37年)>	
居住人口	: 1.2万人	⇒	2.5万人 ~ 3.0万人
通勤・通学、交流人口	: 1.4万人/日 (地域外からの流入人口)		3.1万人/日 ~ 3.6万人/日
対象面積: 1,313.6ha (各駅概ね1km圏、海上の森を除く)			

4 将来像の実現に向けた取組

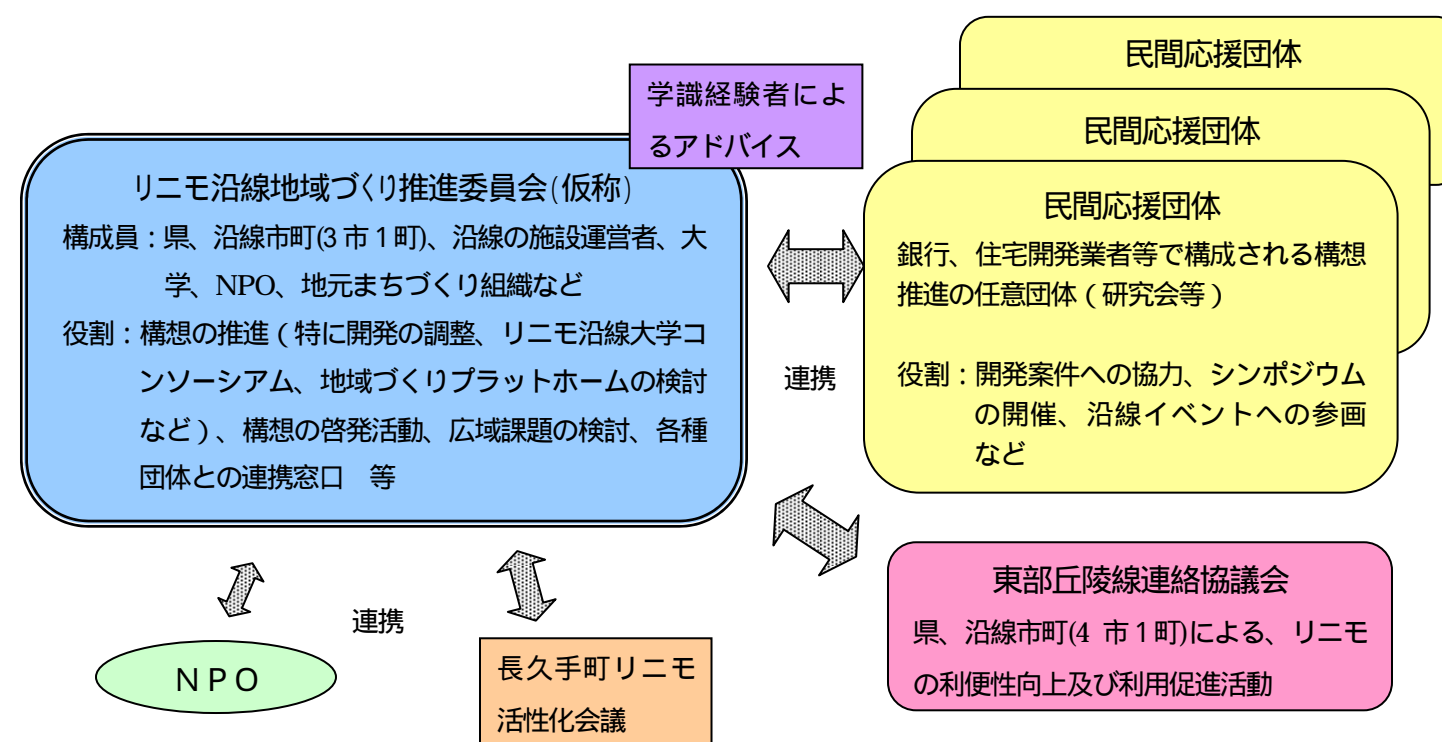
(1) 基本戦略及び主要施策

「自然環境の保全に配慮した計画的な市街地整備」など地域の将来像実現に向けた14の基本戦略と、それを具体化するための36の主要施策(詳細はp2)

(2) 各駅周辺の整備のあり方(詳細はp3~4)

駅周辺の将来像、土地利用の方向性、導入機能の方向性、面的整備事業等

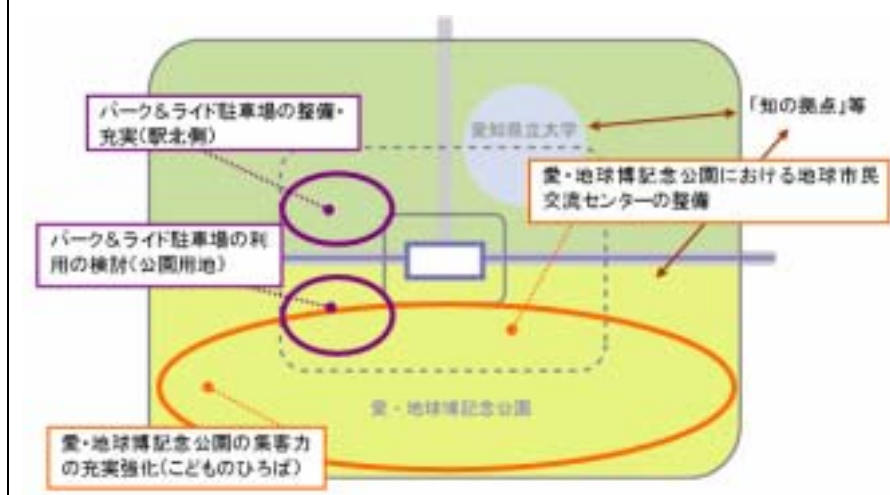
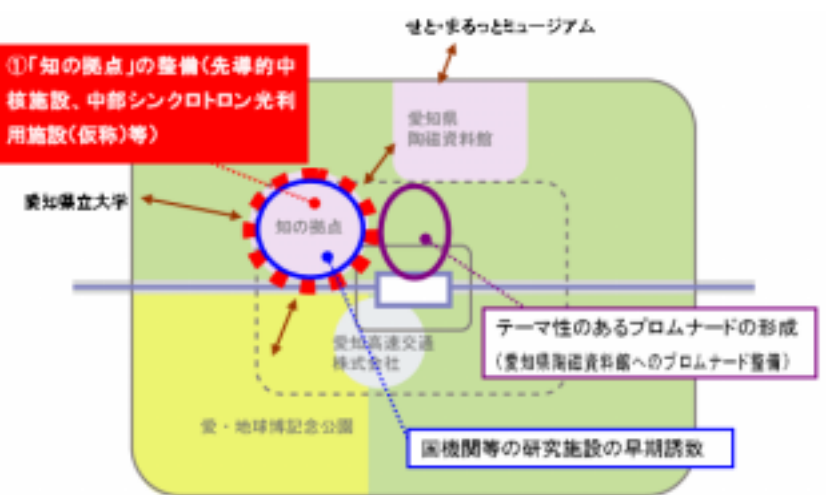
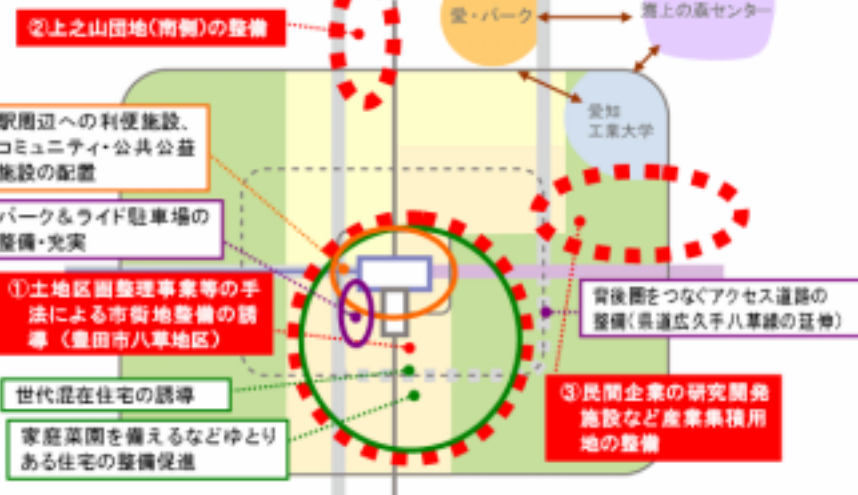
5 構想の推進体制



地域の将来像実現に向けた基本戦略及び主要施策一覧

将来像	基本方針	基本戦略	主要施策	主要施策の主な取組エリア						
				古戦場	芸大通	公園西	記念公園	陶磁資料	八草	海上の森
愛・地球博の成果を継承・発展させるまち	1. 環境共生型の暮らしが根付くまちづくり	1. 自然環境の保全に配慮した計画的な市街地整備	1. 中 駅を中心に概ね 1km 圏内の市街地整備の推進 2. 中 森林・農地の適正な維持管理(あいち森と緑づくり税活用による里山林整備等)							
		2. 低炭素社会を実現するまちづくり	3. 短 エコ技術の導入 (太陽光発電、屋上・壁面の緑化等) 4. 短 「エコモビリティライフ」の推進 (通勤転換、パーク&ライド等)							
		3. 自然や身近な緑と親しめるまちづくり	5. 中 家庭菜園を備えるなどゆとりある住宅の整備促進 6. 中 水と緑のネットワーク形成の推進(ウォーキングロード等の充実) 7. 短 田園バレー事業の推進 (地産地消の推進等) 8. 短 環境学習の促進							
	2. 文化・レク施設等に人々が賑やかに集い、楽しく交流するまちづくり	4. 沿線施設の連携と民間活力を活用した「にぎわい」づくり	9. 中 愛・地球博記念公園の集客力の充実強化 10. 短 瀬戸万博記念公園 (愛・パーク) の活用 11. 短 沿線施設の組織化及び沿線の一体となったイベントの実施 12. 短 企業、大学等が参画した交流イベント等の実施(合同学園祭等)							
3. 新しい地球市民交流・市民参加活動が生まれるまちづくり	5. 地域全体で取り組む「市民力」アップ	13. 短 愛・地球博記念公園における地球市民交流センターの整備 14. 短 一市町村一フレンドシップ、万博ボランティアの継承・充実								
4. 環境分野等の先進的取組を通じ、課題に挑戦しつづけるまちづくり	6. 大学、NPO、企業等が連携した先進的取組の場・機会の提供	15. 短 エコマネー活動・ゼロエミッションの取組 4. 短 「エコモビリティライフ」の推進 (通勤転換、パーク&ライド等)(再掲) 16. 中 IT 技術を活用した交通情報等の共有 (WEB によるリニモビ等)								
愛知の新たな飛躍をリードする研究学園地区	5. 最先端の科学技術の共同研究や実証実験が行われ、世界に発信するまちづくり	7. 科学技術の創造拠点の形成	17. 短 「知の拠点」の整備 (先導的中核施設、中部シンクロトン光利用施設 (仮称) 等) 18. 中 国機関等の研究施設の早期誘致							
		8. 技術先端型企業等の研究開発機能の誘導	19. 中 民間企業の研究開発施設など産業集積用地の整備							
	6. 地域内外の大学・研究機関の相互連携、研究交流が盛んなまちづくり	9. 学生や研究者が活動しやすい環境づくり	20. 中 駅周辺での芸術活動の場の整備の推進 21. 中 愛知県農業総合試験場の機能強化 (研究環境の整備、研究交流の充実等) 22. 短 愛知県立芸術大学の充実 23. 短 沿線大学のコンソーシアム形成等による連携強化							
		10. 大学・研究機関による地域連携活動の展開	24. 短 青少年などへの科学技術の啓発活動の推進 (サイエンスカフェ等) 25. 短 大学による地域貢献活動の充実 (大学による市民講座、生涯学習の提供等)							
リニモでつながる「コンパクト」なまち	7. 駅ごとに特色ある都市機能が集積したまちづくり	11. 各駅の機能・役割に応じた都市的土地利用の誘導	26. 中 長久手古戦場駅、公園西駅、八草駅周辺への集約的な都市的土地利用の誘導 27. 中 駅周辺への利便施設、コミュニティ・公共公益施設の配置							
	8. 駅と背後圏が有機的に連携したまちづくり	12. 周辺施設とのネットワークの強化	28. 短 パーク&ライド駐車場の整備・促進 29. 中 背後圏をつなぐアクセス道路の整備 30. 中 テーマ性のあるプロムナードの形成 (沿線施設へのプロムナード整備) 31. 短 フィーダー交通の充実 (周辺住宅団地との連携強化等) 32. 短 せと・まるっとミュージアム構想を踏まえた連携の推進 (瀬戸蔵と愛知県陶磁資料館の回遊等)							
	9. 活発なコミュニティにより持続的に発展するまちづくり	13. 沿線の演出等によるアイデンティティの形成	33. 短 シーズンイベントの開催 (芸術、電飾等を利用した地域の演出) 34. 中 地域づくりのプラットホーム構築等によるエリアマネジメント							
14. 新しいライフスタイルを支えるコミュニティの形成		35. 中 世代混在住宅の誘導 36. 短 ホームページ、ミニコミ誌など沿線情報の一体的提供								

(注) 主要施策のうち、ゴシック太字はハード施策。ハード施策・ソフト施策の順に、実施時期を短中 で整理 (短：3年程度(2011年頃)で具体化する事業、中：目標年次2015年頃までに具体化をめざす事業)

	4 愛・地球博記念公園駅 ～地球市民交流の拠点地区～	5 陶磁資料館南駅 ～科学技術の発信地区～	6 八草駅 ～広域交通が結節する新都市地区～
市街地整備のイメージ			
土地利用の方向性	愛・地球博記念公園や愛知県立大学など既存施設の活用・充実を図るとともに、民間活力の導入等により愛・地球博記念公園内での基本計画に整合する新たな施設や駅前地区での便民施設の誘致等によって集客機能の強化と来訪者の利便性向上を図る。また、駅後背圏の利用に向けたパーク＆ライド駐車場を整備・充実し、「エコモビリティライフ」を推進する。	大規模な山林の保全に配慮しつつ、先導的中核施設や中部シンクロトン光利用施設(仮称)など各種研究施設の整備を進め、「知の拠点」を中心とした研究開発地区の形成を図る。愛知県陶磁資料館の魅力アップに向けて、駅からのプロムナードの整備を図る。	市街化区域を中心に市街地整備を実施し、良好で特色ある住宅地の形成を図る。駅前では、交通結節点という八草地区の特性を活かした住宅、商業、コミュニティ関連施設等の都市機能を誘導し、パーク＆ライド駐車場を整備・充実するなどにより沿線の東の拠点に相応しい市街地形成を図る。駅東方の猿投グリーンロード北側一帯において産業集積用地整備を進める。
主要施策(面的整備事業等)	(愛・地球博記念公園における施設の充実を図る。)	「知の拠点」の整備(先導的中核施設、中部シンクロトン光利用施設(仮称)等)	土地区画整理事業等の手法による市街地整備の誘導(豊田市八草地区) 上之山団地(南側)の整備 民間企業の研究開発施設など産業の集積用地の整備

愛・地球博記念公園には地球市民交流センターをはじめ魅力的な施設が整備されている。また、駅周辺には便民施設も立地している。



平日、地球市民交流センターでは市民団体が万博の成果を継承する多彩なプログラムを開催しており、小学生、小さな子ども連れの親子やおじいちゃん、おばあちゃんなども参加して楽しんでいる。休日になると、愛・地球博記念公園では、沿線大学のコンソーシアムが企画した野外コンサートが開催されるなど、家族連れや若者たちで盛り上がっている。

愛知県陶磁資料館、知の拠点、愛・地球博記念公園、愛知県立大学などが連携し、文化、科学技術、スポーツレクリエーションの複合的な交流の場を形成している。



平日、研究者たちが慌しく仕事をする傍ら、社会見学に来た小学生たちは目をキラキラさせて興味深そうに科学技術の展示に見入っている。休日には、豊かな自然環境の中、家族が陶磁器鑑賞や作陶・絵付、科学技術教室、スポーツレクリエーションを楽しみ、一日をゆったりと過ごしている。

駅を中心に便民施設を含む環境共生型の良好な市街地が形成されており、広域交通の拠点、地域の生活拠点として、住宅、企業の事業所などが周囲の里山と調和している。



平日、リニモや愛知環状鉄道の駅から、大学生や研究者が大学・職場に向かっていく。リュックを背負った夫婦があいち海上の森センターに向かって緑豊かな遊歩道を足取りも軽やかに歩いている。パーク＆ライド駐車場から、出勤途中のサラリーマンが駅に向かう。